

開催報告

平成 22 年度岐阜大学応用生物科学部シンポジウム(共催:岐阜県農林業教育システム)が12月1日(水)に101多目的室で開催された。学外関係者, 教職員, 大学院生および学部学生がおおよそ100名参加した。

シンポジウムのテーマは、「卒業生が語る応用生物科学部へのメッセージ –就業力の向上と岐阜県農林業教育システムへの期待-」で, 応用生物科学部・科学研究推進室が企画した。趣旨は、第一線で活躍する卒業生から職場の現状を聞き、就業力と学部教育の向上について考えることである。また、昨年度(平成21年9月4日に)、岐阜県農林業教育システムが締結され、県内関係機関の連携による農林業の人材育成が目指されている。そこで、県域農林業の人材育成に関わる機関の関係者が一同に会し、農林業人材育成のための教育システムについても検討する場となる。尚、本教育システムは、岐阜大学応用生物科学部、岐阜県農業大学校、岐阜県立森林文化アカデミー、岐阜県立国際園芸アカデミー及び岐阜県内農業関係高等学校で構成されている。

講演に先立ち、金丸義敬学部長が開会挨拶として、本シンポジウムの今までの経緯を紹介した後、4名の講演者への謝辞および岐阜県農林業教育システムへの期待と抱負を述べた。

第1部は椎名貴彦准教授(科学研究推進室員)の司会により、「農林業・行政の現状と高等教育への期待」をサブテーマとして、2名が講演した。まず、田口弘泰氏(家禽畜産学科・平成2年3月卒業, JA 岐阜中央会・企画総務課長)が「職業としての農業・農協の魅力と高等教育への期待」と題して講演した。特に岐阜県における農業・農産物生産についての年次毎の諸統計の明解な説明の後、今後の施策の重要性が語られた。また就職活動における重要ポイントについての解説も参加した学生にとって意味あるものだった。

次に、島崎亜紀氏(獣医学科・平成12年3月卒業, 獣医師・名古屋市職員)が「食の安全を守る仕事・公務員 獣医師の職場紹介」と題して講演した。カンボジアと日本における食品衛生管理状況の具体例を使いウイトに富んだ比較説明で参加者を魅了しつつ、食品衛生法の重要性をわかり易く解説した。

第2部は荒井 聡教授(科学研究推進室員)の司会により、「岐阜県農林業人材育成に向けた高等教育の在り方」をサブテーマとして、2名が講演した。一人目は篠田善彦名誉教授(岐阜県森林科学アカデミー学長)が「林業における人材育成と連携への期待」と題して講演した。岐阜県は森林保有率が80%以上の森林県だということと、森林の有効利用の大切さが熱く語られた。そして、その為の人材として「フォレスター」が必要であり、国の施策としても動き始めているという紹介があった。

二人目は土井 守教授(平成22年度教学委員長)が「高大連携による基礎学力の確保」と題して講演した。高大連携の背景と客観的な意味付けの後、当学部における実施例についての紹介があった。今年度実施して得られた問題点についての整理と今後の展望について述べられた。

第2部の講演後に、鈴木文昭教授(科学研究室長・副学部長)の司会で講演者と参加者の意見交換を行った。参加者数名から率直で具体的な質問があり、それぞれに対して複数の講演者が対応した。また、連携関係者(高畑岐阜農林高校長)から高大連携への期待等が述べられた。

最後に鈴木文昭教授が本シンポジウムを総括後、講演者および参加者に感謝の意を表し、閉会した。

